
DM-3200 DAW Control

Mackie Control emulation for Logic 7.x

日本語版

Version 1.10

1. 概要.....	3
2. DM-3200 及び Logic の設定.....	3
2.1 DM-3200 の設定.....	3
2.2 Logic の設定.....	3
3. LCD 画面.....	4
4. チャンネル機能.....	4
5. トップパネルキー.....	5
5.1 センド 1-8 の選択.....	5
6. トランスポート.....	5
6.1 ファンクション・キー.....	6
6.1.1 CTRL + F1-8 アサイン.....	6

1. 概要

本マニュアルは DM-3200 コントロール・サーフェースを使用した Logic 7.x のコントロールについて述べられています。

2. DM-3200 及び Logic の設定

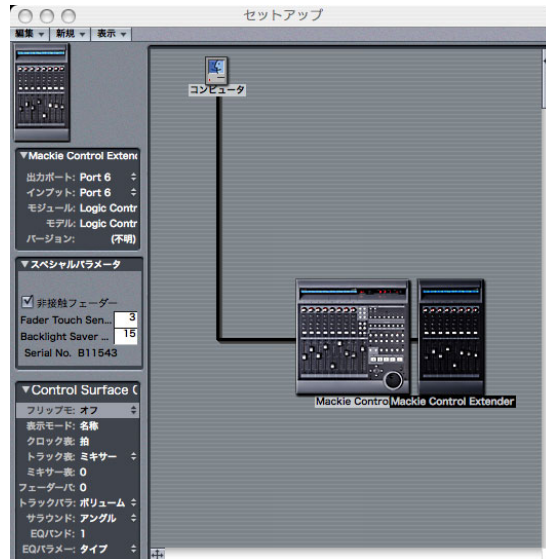
2.1 DM-3200 の設定

DM-3200 の REMOTE > EXT.CTRL 画面にて、サポート・デバイスの中から MC for Logic を 2 つ追加します。

同様に REMOTE > MACHINE CTRL 画面にて、サポート・デバイスの中から MC for Logic を 1 つ追加します。デバイス登録後、トランスポート機能を有効にする為に TRA 部分のラジオボタンをチェックする必要があります。

2.2 Logic の設定

Logic メニューバーの Logic Pro > 環境設定 > コントロールサーフェス > セットアップをクリックしてセットアップウィンドウを開きます。



左上のメニュー、新規 > インストールをクリックするとインストールウィンドウが表示されます。

インストール可能なモデルが表示されるので、下記を選択します。

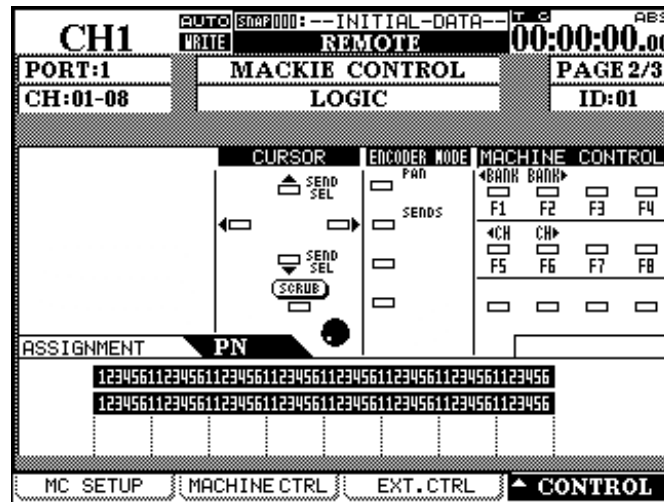
Mackie Designs Mackie Control

追加ボタンをクリックしてセットアップウィンドウに追加し、出力ポート、インプットに Port 5 を設定します。

同様に Mackie Control Extender を追加して出力ポート、インプットに Port 6 を設定します。
設定はこれで完了です。

3. LCD 画面

下の画面が Logic コントロール用の画面です。



4. チャンネル機能

以下の表はチャンネル機能の概要です。

DM-3200	補助キー	Logic 機能	注記
リングエンコーダー		エンコーダー	パン・AUX センドなどをコントロールします
リング LED		リング LED	リングエンコーダーを操作する事によって変更されたパラメータ情報のレスポンスが Logic から返ってくる事によってリング LED の点灯を行います
Select キー		Select	トラックの選択を行います セレクトされたトラックは SEL LED が点灯します
	Rec	Rec ready	トラックをレコードレディ設定をします アクティブ時、RED LED が点灯します
Solo		Solo	トラックのソロオン：オフ設定をします オン時、SOLO LED が点灯します ソロ・オンではないトラックはミュートされます
Mute		Mute	トラックのミュートオン・オフ設定をします オン時、MUTE LED が点灯します
トラックフェーダー タッチ		トラックフェーダー タッチ	トラックフェーダーのタッチセンスメッセージを送信します

トラックフェーダー		トラックフェーダー	トラックフェーダーをコントロールします
マスターフェーダー タッチ		マスターフェーダー タッチ	マスターフェーダーのタッチセンスメッセージを送信します
マスターフェーダー		マスターフェーダー	マスターフェーダーをコントロールします

5. トップパネルキー

下記の表は DM-3200 トップパネルキーによるコントロールの概要です。

DM-3200	補助 キー	Logic 機能	注記
Pan (ENCODER MODE セクション)		Pan	リングエンコーダーによってコントロールされるパラメータをパンに設定します
Aux (ENCODER MODE セクション)		Send 1-8	リングエンコーダーによってコントロールされるパラメータをセンドに設定します
Flip		Flip	リングエンコーダー操作対象パラメータとフェーダーレベルをフリップします
上カーソル		上カーソル	
下カーソル		下カーソル	
左カーソル		左カーソル	
右カーソル		右カーソル	
データホイール			
	Scrub	Scrub	データホイールの動作モードをスクラブにします スクラブモード時に LCD 画面内の SCRUB スイッチは反転表示になります

5.1 センド 1-8 の選択

Encoder mode セクションの SENDS キーを押すとセンド 1-8 のコントロールを行う事が出来ます。

SENDS キーを押したあと、センド 1-8 の選択は上下カーソルキーにて行います。

6. トランスポート

下記の表は DM-3200 トランスポート関連によるコントロールの概要です。

DM-3200	補助 キー	Logic 機能	注記
Rewind		Rewind	Rewind, Slow Rewind 操作を行います
Fast forward		Fast forward	Fast Forward, Slow Fast Forward 操作を行います

Stop		Stop	Sop 操作を行います
Play		Play	Play 操作を行います
Record		Record	Record 操作を行います
<BANK		< BANK	コントロール対象を 8トラック左へシフトします
BANK>		BANK>	コントロール対象を 8トラック右へシフトします
<LOCATE		<CHANNEL	コントロール対象を 1トラック左へシフトします
LOCATE>		CHANNEL>	コントロール対象を 1トラック右へシフトします
F1-8	CTRL	F1-8	F1-8 にアサインされた機能をコントロールします

6.1.1 ファンクション・キー

CTRL キーを押しながら F1-8 キーを押すと F1-8 にアサインされている機能のコントロールができます。

6.1.2 CTRL + F1-8 アサイン

CTRL キーを押しながら F1-8 キーを押す事により Logic の下記のウィンドウが開く。(Logic 7.1 の場合)

Function keys	Logic7.1 assignment
CTRL + F1	スクリーンセット 1 を呼び出す
CTRL + F2	スクリーンセット 2 を呼び出す
CTRL + F3	スクリーンセット 3 を呼び出す
CTRL + F4	スクリーンセット 4 を呼び出す
CTRL + F5	スクリーンセット 5 を呼び出す
CTRL + F6	スクリーンセット 6 を呼び出す
CTRL + F7	スクリーンセット 7 を呼び出す
CTRL + F8	未アサイン